

体感する音楽

大学院声楽専攻オペラ・コース 2年

吉田望弥

彼との出会いは、ドイツリートが何なのかすら知らなかった、歌を習い始めたばかりの頃でした。今でもあの時の光景がありありと浮かびます。タワーレコードでセールになっていたCDを買って帰り、自室でひとり、再生ボタンを押したのです。スピーカーから流れる彼の声に、すぐに心を奪われました。その日を境に、気分が落ち込むことがあると彼の歌に会いたくてたまらなくなり、気づくといつも彼のCDばかり聴くようになっていました。なぜこれほど彼の歌に惹かれたのか、今ではわかりません。

当時買ったそのCDは「詩人の恋」という題がつけられたもので、今回紹介する「ザルツブルク・リサイタル」とは違うものですが、収録曲はほとんど同じです。「ザルツブルク・リサイタル」はライブ録音のため、拍手や息づかいなども収録されており、ヴァンダーリヒが目の前で歌っているかのような臨場感が感じられます。1995年8月にモーツアルテウムにて開かれた「ザルツブルク・リサイタル」当時、ヴァンダーリヒは34歳。翌年1996年9月17日、彼自身の誕生日を目前に、事故により35歳の若さでこの世を去りました。このリサイタルには、彼の命の輝きさえ感じます。

今こそ歌詞の意味がわかりますが、ヴァンダーリヒの歌に出会った当初は、これが何語なのか、どんな意味の歌なのか、何もわからずにいました。ただひたすら、彼の歌声に感銘を受け続けたのです。彼が天性の美声の持ち主だということとは言ってもありません。その甘くまろやかな、あたたかい輝きに満ちた音色で、それぞれの曲に合った歌唱スタイルをとりながら、音楽を魅力的に仕上げます。そのうえ彼の歌は、人の優しさやあたたかさ、全ての人に生まれながらに備わっている「人間の良さ」に溢れています。私が事細かに説明しなくても、あなたがこの音楽について何にも知らなくても、このCDを再生すると最初に流れ出す

子どもに生きる

音楽教育学科幼児教育専攻 3年

荒井美穂

このタイトルを見て、幼児教育科じゃないから関係ないや、と思いませんでしたか？でも本当は関係があるかもしれません。自分の

「アデライード」を聴けば、あなたはすぐに私と言わんとする事がわかるでしょう。きつと、素晴らしい音楽を体験することができますよ。ヴァンダーリヒの音楽だけでなく、あなた自身の中に溢れる音楽を。



ザルツブルク・リサイタル/
フリッツ・ヴァンダーリヒ/
Palette/acanta PAL-1077
請求記号●XD5260

●よしたのそみ 最近はいアン・ホストリッ
ジに浮気中です。でもやっぱり心の恋人は
ヴァンダーリヒ！

将来にも関わってくるかもしれないよ(笑)
大学を卒業し社会に出ると、音楽教室などの子どもと接する職業に就く人が多く、子どもと関わる機会が増えると思います。また女性の場合、将来は子どもを産む機会に恵まれるかもしれません。その時子どもを目の前にして思うことは2つ。「かわいい！」と「子どもってわからない！」
実際子どもとどう関わったらいいのかわからない、という意見はよく耳にしますし、私も初めて子どもと関わった時は「かわいい！」でしたが、いろいろと関わっているうちに「わからない！」も出てくるようになりました。
この本は、実際のエピソード付きで子どもの気持ちや行動の意味をひも解いているので、とても親しみやすくてわかりやすいのが特徴です。保育者の体験をもとに文章が構成されているため、保育者目線の子どもの姿の捉え方がよく表れています。タイトルに注目してみると、「子どもと生きる」でもなく、「子どもが生きる」でもなく、「子どもに生きる」となっています。ここからは私の解釈ですが、子どもの視点にたつて物事をみると、「その子どもが何をしたがっ

ているのか」「どんな気持ちでいるのか」ということが、「大人の私たちでも理解できるのだよ」ということを伝えたくて、こうなっているのではないかと思えます。「子どもに生きる」ためには子どもと同じ目線に立つて考えてみることも、保育者だけでなく必要なのではないのでしょうか。

「これなに？なんで？」と聞く子どもの気持ちも、この本を読めば少し理解できるようになると思えます。少しでも子どもの素朴な疑問にわかりやすく答えてあげられるような大人になりたいですね。

この本には他にも表現から読み取る子どもの気持ちや、子どもを取り巻く環境の重要性などについて書かれています。目からウロコの情報ばかりです。ぜひ手に取って読んでみてください。



「子どもに生きる」
青木久子著 明文書林
請求記号●J94-291

●あらみほ サンエックスキャラクターのコリラックマが大好きです。通常のグッズはもちろんです。限定商品もチェックし買いに行きます。季節ごとに異なるコリラックマが抱えています。最近、同じなまへの幼稚園児と仲良くなりました。

BOOK

やっと見つけた 私の参考書

音楽教育学科音楽教育専攻 3年

江川友理奈

ご紹介させていただく書籍は「動いてノッて子どもも熱中ノリトミックでつくる楽しい音楽授業」です。

この書籍は本学のリトミック講師である井上恵理先生と教職科目の講師である酒井美恵子先生が共同で書かれたもので、タイトル通り、リトミックを生かした小学校の音楽授業の方法について書かれています。

私は4月からリトミック指導者コースに所属しており、授業だけでなく、自主的にリトミックに関して勉強しようと思ひ、OPACで「リトミック」と検索したところ、何百冊もの書籍名が出てきました。そして真つ先に私の心を引き付けた書籍がこれだったので

す。目次を開いた時点で、まずは見やすい(笑)。さらに、私の勉強精神を高めさせてくれる項目名。

内容は、はじめにリトミックの説明が詳しく書かれてあり、それを踏まえ、小学校の学習指導要領をもとにして、リトミックを融合させた授業プランの例がイラスト付きで掲載されています。歌唱、器楽、創作、鑑賞のすべての分野の授業展開が書かれてあり、また題材曲が童謡や誰もが知っている曲(うみやふるさと)などばかりなので、「これらを題材曲にした授業なら、きつと子供たちも親しんで参加できるだろうな」と

専門的に学ぶようになってから、演奏をする際に大切な「想像力」と「表現力」が以前に比べて変わってきた気がします。今更ながらですが、「幼い時からリトミックをやっていたらよかったな」と後悔しています。だから私は学校の授業でリトミックを少しでも取り入れ、「音楽」を身体全体で感じ、関心を持つてもらいたいと思っているのです。

思いながら読んでいました。そして、学習指導要領の共通事項の説明などもわかりやすく書かれています。授業でリトミックを取り入れるかどうかとは別に、学習指導案を作成する際の悩みが少し改善される内容でもありますよ。ここには小学校の学習指導要領について書かれています。中学校や高校の学習指導要領とそこまで変わりはないので、教職科目を学んでいる方は必見です。

現在、音楽の授業でリトミックを取り入れている学校が少ないと聞き、私は非常に残念に思っています。私事ですが、リトミックを

「リトミックって何だろう？」と思つていらつしやる方でも読みやすい書籍ですので、ぜひ読んでみてください。そして将来、教員や指導者になろうと考えていらつしやる方々にはぜひ読んでいただきたい一冊です。残念ながら、この書籍は館内でしか閲覧できないので、くれぐれもそのまま持ち帰らないようにしてくださいね(笑)



「動いてノッて子どもも熱中!
リトミックでつくる楽しい
音楽授業」明治図書出版
請求記号●J121-954
推薦図書 (L9-302)

●えがわゆるいな 音楽の勉強も大事だけど、そろそろ恋愛についての勉強もしようかな(笑)